

(3) 協議会委員

	氏名	役職・所属名	住所・電話
1	今井 豊蔵	社会教育委員	福島市飯坂町湯野字銚子口6～11 飯坂 2—2604
2	小林 忠道	学識経験者	" 浜田町1～29 22—4157
3	佐藤 厚友	"	" 飯坂町平野字小深田北8～13 飯坂 2—5810
4	齋藤 信夫	福島県立福島中央高等学校 教頭	" 岡島字荒小屋110～134—6682
5	片平喜久夫	福島市青少年サークル連絡協議会会長	" 平河南町8～22 35—6459
6	穴戸 才修	福島市青少年指導員	" 荒井字台12 93—1078
7	菅野 重信	福島青年会議所 青少年委員長	" 置賜町8 22—6509
8	鈴木 光雄	福島商工会議所 企画課長	" 森合字宇ノ前14 57—9625
9	渡辺 又夫	株式会社 粉又社 社長	" 渡利字舟場62 23—5532
10	宮村 義一	福島県経営者協会 会長	" 腰浜町8 22—3776

(4) 講師 東北福祉大学教授 教育学博士 古籾安好

(5) 協議会経過

第1回協議会(49・6・13)

- 福島市における青年教育の現況と問題点
- 講義「勤労青年の生活意識をめぐって」  
東北福祉大学教授 教育学博士 古籾 安好
- 研究協議  
「振興協議会による2年間を見通した事業計画」

第2回協議会

- 「福島市における勤労青年生活実態調査」の調査票検討
- 調査の実施方法について

第3回協議会

- 「福島市における勤労青年生活実態調査」の中間報告

(6) 期間

本事業は昭和49～50年度の2ヵ年継続であり、本年は第1年目である。

## 11 青少年指導員の設置

(1) 趣 旨

青少年教育の充実振興を図るため、市町村における青少年団体活動の企画立案、実際指導並びに団体の健全育成についての指導に当たり、もって本県青少年教育の振興に資する。

(2) 任 務

指導員は、市町村教育委員会・公民館・社会教育関係団体の求めに応じ、次にかかげる事項について指導助言に当たる。

- ① 青少年団体の運営及び活動について
- ② 青少年の学習活動に関すること
- ③ その他青少年教育の振興に関すること

(3) 昭和49年度青少年教育指導員名簿

教育事務所	担当地区	氏名	住 所
県 北	信夫・伊達 安達	市川 清純	二本松市袋内163
県 中	郡山・岩瀬 行川・田村	村上 勝嘉	田村郡小野町大字浮金宇 杉ノ内173
県 南	西白河 東白川	満山 喜和	西白河郡大信村大字隈戸 字仙久内屋敷12
会 津	北会津 耶麻・両沼	井関 亨慈	会津若松市新横町5—5
南 会 津	南会津	星 政男	南会津郡田島町大字川島 字川島平1823
相 双	相馬・双葉	佐藤 照夫	原町市大町1丁目1番地
い わ き	いわき	西郡 忠幸	いわき市平下片寄字立坂 95

## 12 文部省認定社会通信教育 受講者研究集会

(1) 趣 旨

県内の文部省認定社会通信教育受講者や関係者が一堂に会し、学習方法や体験などを話しあい、相互に激励しながら学習意欲を高めるための機会と場を提供し、もって本県社会通信教育の振興を図る。

(2) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和49年11月10日(日)
- ② 会 場 県立白河女子高等学校
- ③ 参加者 ア、県内社会通信教育受講者及び受講希望者  
ア、市町村教育委員会社会通信教育担当者(95名)

(3) 面接課程・実施団体・講師名

面接課程	実 施 団 体	講 師 名
孔 版	実務教育研究所	横田 精造
き も の	大塚学院大塚末子きもの学院通信教育部	武田 敏子
速 記	川口学園早稲田速記通信教育センター	栗城 正義
レタリング	日本通信美術学園	佐藤 玲子
実 用 英 語	日本英語教育協会	齋藤 一郎
アマ無線技士	無線従事者教育協会	塩沢 守行
保 育	日本学芸協会	倉園 昭雄
文 化 服 装	文化学園文化服装学院通信教育部	高橋 啓子
書道・ペン習字	日本書道教育学会通信教育部	二瓶喜代美
栄 養 と 料 理	香川栄養学園女子栄養大学社会通信教育部	高田 宮子

## 13 社会通信教育グループ学習班の育成

(1) 趣 旨

文部省認定社会通信教育による学習成果を高めるため、グループにより共同学習を行い、自主的学習団体の育成を図り、社会通信教育の振興に資する。